

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

2015 年

No. 47

2015年2月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2015 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「関西性教育研修セミナー2014冬」報告 …… 1	性教育の歴史を尋ねる②③ …… 10
第24回関東甲信越静性教育研究大会長野大会 …… 6	今月のブックガイド …… 11
もっと知りたい女子の性⑥ …… 8	JASEインフォメーション …… 12

●「関西性教育研修セミナー 2014 冬」報告●現場からの発信 !!

知的障がい児(者)への性教育実践の工夫あれこれ

2014 年 12 月 23 日(火曜日・祝日) 午後 1 時 15 分より、大阪府立大学「I-site なんば」において、現場からの発信!! 「知的障がい児(者)への性教育実践の工夫あれこれ」をテーマに関西性教育研修セミナーが開催された。セミナーでは、大阪府立泉北高等支援学校養護教諭の船木雄太郎氏、淑徳大学大学院／人間総合科学大学非常勤講師の武子愛氏の 2 つの実践報告が行われ、報告後、講師と参加者の間でディスカッションが行われた。

主催：関西性教育研修セミナー実行委員会

はじめに

17 回目をむかえた関西性教育研修セミナーは、知的障がい者への性教育に取り組んでいるお二人に、その実践の様子を報告していただいた。

お一人目は、男性養護教諭の船木雄太郎氏の報告である。

全国で 46 人、大阪府で 5 人の男性養護教諭がいるという。その中の一人である船木氏は、「『せい』からひろがる、新しい自分をみつける～性に関する指導実践～」をテーマに、性に関する集団指導および個別指導の実践をギター演奏と自作の歌をまじえながら報告された。

お二人目の淑徳大学大学院／人間総合科学大学非常勤講師の武子愛氏は、「性のモラルを守るための

性教育実践～軽度知的障がい者を対象に～」をテーマに、通勤寮における実践を報告していただいた。

『せい』からひろがる、新しい自分をみつける～性に関する指導実践～

船木氏の報告は、「手をたたきましょう。足踏みしましょう。……、ああ、おもしろい」と、いきなり歌から始まった。

「障がいのある生徒の性に関わる行動上の問題解決の支援において、従来型の知識を教授することを重視した性教育や、問題発生時に一時的に注意する指導のみでは、限界があると感じていました。そこで平成 21 年度から、大阪大学大学院の野坂祐子先生の指導助言のもと、問題となる性行動のある生徒への支援を始めました。この指導・支援をきっかけ

に、学校全体でさまざまな実践に取り組んできました。その実践の一部を紹介するとともに、私の感じていることをお話しします」と語る船木氏たちの実践の根底には、次のような課題に対する分析がある。

『平成 25 年度「思春期におけるさまざまな課題のある生徒への健康教育と生徒指導」報告書Ⅱ』（編集・作成：野坂祐子大阪大学大学院人間科学研究科）に掲載された文章（池川典子・船木雄太郎）を抜粋する。

知的障がいのある生徒が通う本校に着任した当初、難しいと感じたのが、「ムカつく」「イライラする」といったネガティブな感情を前面に出しながら、暴言や暴力的な行動などで表現する生徒への対応だった。当時は、そんな生徒たちの怒りをどう鎮めるかが最大の課題であると感じていた。

生徒の怒りの感情について聴き、怒った理由について話をよく聴くように心がけて対応したところ、生徒の感情はやがて落ち着き、次第に保健室に来るだけでクールダウンできる生徒もみられるようになった。話をよく聴くことは、このように有効な対応であり、一定の効果はみられたものの、何度も同じような場面で怒りを爆発させる生徒がいることに気づいた。つまり、その場では、教員の支援があれば怒りの気持ちを鎮めることができて、別の場面で繰り返し同じような怒りのパターンを繰り返しているのである。

本校の保健室に来室する生徒の悩みの多くは、友だちや異性、教員や保護者との人間関係にまつわるものである。それらの悩みは、「しんどい」という倦怠感や頭痛などの身体症状、暴言や暴力、性に関する問題行動といった行動などによって表現されることが少なくない。また、怒りのコントロールができずに、リストカットなどの自傷をする生徒や、怒りの爆発が原因で友だち関係がうまくいかない生徒、そしてその無力感や不全感から「死にたい」と言う生徒もあり、その場で生徒の気持ちを聴くだけの対応には限界を感じるようになった。

人間関係がうまくいかない理由には、自分や他者の感情の理解が不十分であり、感情のコントロールがうまくできない、そしてコミュニケーションスキルが身につけていないといったことが考えられる。これらは、こころの発達課題ともいえるものであ



自作の歌で始まった船木氏の実践報告

る。（中略）

実践研究のなかで、生徒の感情だけに注目するのではなく、「思考－感情－行動のつながり」を学んだことが一つの転機になった。生徒の考えかたを理解しようと努めると、生徒の話の聴きかたも変わっていった。生徒が「その場面をどんなふうに捉えたのか」を理解しようとする、生徒がなぜそんな気持ちになったのかがわかりやすくなる。（中略）

この体験がきっかけになり、生徒の思考と感情に対するアプローチに取り組むようになった。

初めは個別指導で取り組んできた感情の学習を、集団指導でも行うようになったという。

養護教諭が行う健康相談や個別指導の目標を、次の4つにまとめている。

- ①自分の感情に気づき、理解する。
- ②感情を適切に表現する。
- ③感情をコントロールする。
- ④他者の感情を理解する。

船木氏は、「課題となる性行動」について、以下の3点をあげている。

- ①自分を傷つけたり、危険にさらすような性行動。
不衛生だったり性器を傷つけたりするような方法



でマスターベーションをすとか、避妊をせずに無防備な性交渉をすることなど。

②相手を傷つけ、自分にも不利益となる性行動。

トイレや更衣室を覗いたり他者の下着をとる、自分の性器を露出させて見せようとする、あるいは性器を触らせたり触ったりするなどの行動。

③問題となる性行動は、相手の周囲を困らせるだけでなく、その生徒自身にとっても危険性を高めたり、嫌われたり処罰を受けたりするなどの不利益につながるもの。

そして「課題となる性行動」の背景について、「生徒の満たされない気持ちや怒り、不十分なコミュニケーションスキル、相手の気持ちを理解することの難しさなどであり、決して特別で特殊な問題ではない」、また「自己理解や他者理解、コミュニケーションスキルや問題解決能力といった対人関係スキルの獲得、社会的ルールの理解、境界線の理解などが重要」であるという。

◆新しい自分をみつける「きもち学習」

大阪府立泉北高等支援学校では、毎月実施している体重測定の際に、集団保健指導を行っている。指導時間は、約 20 分間で、「自分のからだと気持ちを知ろう」を重視した指導を学年別に実施している。

集団指導では、①自分の感情に気づき、理解し、適切に表現する、②からだで感情のつながりを意識させる、③相手の気持ちを理解させる、ことを指導のポイントとしているという。

一方、個別指導は、生徒と担任、船木氏の 3 人で、月 1 回、放課後などに 60 分程度行っている。テーマは、その時々タイムリーな話題を複数あげ、その中から生徒が選択した話題を話し合う方法をとっ



ているという。話し合いは生徒が自由に話することができる環境を整えることに留意し、ときには養護教諭や担任の自己開示をしながら、生徒が抱えている問題や思いへのアドバイスなどを行っているという。

話し合いが終えると、生徒から「次、いつやるの？」というような反応があるという。

「おとこじゅく」と名付けられた個別指導で取り上げる内容は、「男女交際」、「性交」、「性感染症」、「境界線」、「性情報」、「からだ」、「包茎」、「性被害」、「マスターベーション」などである。

「おとこじゅく～大人への 20 ステップ」として次のようなトピックを挙げている。

- ①チンチン・キンタマ 本当の名前は？
- ②性器は人前で見せていい？
- ③朝起きたらペニスが大きくなった！
- ④勃起しちゃった！どうしよう？
- ⑤自分の包茎の色、形、大きさ気になる？
- ⑥包茎って何？
- ⑦陰のうにボールが当たった！いたい！
- ⑧朝起きたら白いものがパンツに！
- ⑨マスターベーションって何？
- ⑩好きな人への、ドキドキする気持ち
- ⑪好きな人をさわりたい。さわってもいい？
- ⑫キスって何？
- ⑬セックスって何？
- ⑭コンドームって何？
- ⑮陰茎がかゆい！どうして？
- ⑯アダルトビデオ（DVD）を見たことある？
- ⑰男の性被害
- ⑱どうしたらモテますか？
- ⑲トイレの神様っていますか？
- ⑳20 歳は大人ですか？

船木氏は、指導を通じて、生徒の心をひらくため、生徒の本音を聞くために心がけていることとして、「相談してもらえるような関わり」、「指導する側もコミュニケーション力を高める」、「教師は生徒にとっての性のモデルでもある」、「性の指導はできるところから」「生徒の全体像に目を向ける」、そして暴力の連鎖は、絶対に止めると強調された。

船木氏の実践報告は、学校での指導を再現しながら、ギター演奏、歌、スライドと多彩なもので、参加者を飽きさせない。

性のモラルを守るための性教育実践 ～軽度知的障がい者を対象に～

知的障がい者の小規模作業施設設立に関わり、その後3年間職員として勤務したなかで、性についての支援者の意識と利用者の気持ちの相違に衝撃を受け、現在の活動を始めたという武子愛氏は、通勤寮の就労軽度知的障がい者を対象にした性教育指導の実践を報告された。

通勤寮から提案された具体的なトピックは、「露出度の高い服の着用を避ける」、「寮の中および近隣など公共の場で交際中の寮生の過度な身体接触を避ける」という2点。

2つのトピックの背景には、ミニスカートをはいた寮生が盗撮をされたという事例と、通勤寮の利用者同士のカップルが、公共の場で過度な身体接触をしているのを目撃され、通報された事例があったからだという。

◆「サークルズ」をベースにした性教育

この実践には、男性19名、女性6名、計25名の寮生と職員2名（男性）が参加したものであるという。具体的には、バーバラ・ベインの「サークルズ」をベースに行われたディスカッションの内容報告であった。

「サークルズ」とは、カナダのバーバラ・ベインが開発した障がいのある人たちが他者との距離（境界線）を学ぶためのプログラムである。

登場人物と接触内容の2種類の付箋にし、「サークルズ」のイラストを付箋で埋めていくという方法で始まった。



カナダのバーバラ・ベインが開発した障がいのある人たちが他者との距離（境界線）を学ぶためのプログラムで、6色で作られた同心円を使い、それを取り巻く各色は自己からの距離にふさわしい態度・感情・行動を表す。自分にとって、どの位置にいる人なのか？ など、具体的な例を挙げて考えていく。



「サークルズ」に貼られた付箋

ちなみに、武子氏が設定した登場人物は、「宅急便の兄さん」、「きんじょの子ども」、「いとこ」、「きょうだい」、「両思いのガールフレンド・ボーイフレンド」、「学校の先生」、「電車やバスで隣になった人」、「寮生」、「おさななじみ」など19のカテゴリー。接触内容は、「握手する」、「手を振る」、「キスする」「プライベートなメールをする」「プライベートで一緒にでかける」、「抱き合う」など18カテゴリーである。



武子愛氏の実践報告

付箋で埋まったイラストをもとに3つのテーマでディスカッションを行っている。

ディスカッション①

露出度の高い服着用の有無

「胸のあいた服や、短いスカートをはいてみせていいのは、サークルの中のどの色の人たちまでだろう？」

ディスカッション②

公共空間における恋人同士の身体接触

「抱き合うとかキスは、どの色の人まで見せてもいいんだろう？」

ディスカッション③

見ず知らずの人への声かけの有無

「赤いサークルの人を好きになったらどうしたらいいんだろう？」

通勤寮で行ったこの性教育の実践について、武子氏は、次のように総括している。

- 抑止（ダメ）を明確に伝えることはできたと思うが、代替えとなる容認（いいよ）される行動を伝えることができなかった。山本良典は「知的障害のある人たちの性に関する生活支援」（『保健師ジャーナル』）のなかで、知的障がい者の性について、性の問題発生後に禁止や否定をするのではなく、「認められる行動を学ぶこと」の重要性を指摘しているが、代替策がなければ一時的な変化にとどまるか、抑圧されるだけになってしまう。どうすれば容認される行動を伝えることができるかは課題である。
- 今回は、男性の寮生も参加したので、妊娠、性産業など、女性が自らの問題として向き合わなければならないトピックには触れることができなかった。

- 保護者の理解なく、避妊や性行為、妊娠や結婚など、踏み込んだ性教育を行うことは難しいと考える。知的に障がいがあっても一人の大人であり、知的に障がいのない成人と同じように他者と性的な関係をもつ権利がある。他者と性的な関係をもつことを前提とした性教育について、保護者の理解を得る方法を考えることも課題である。
- 外部の者が性教育を施設で行う場合、その性教育が要因となって何かあったときは職員が支援を行っていくことになる。その際にどこまで関わっていけるかということも課題である。

参加者とのディスカッション



船木雄太郎氏（左）と武子愛氏（右）

お二人の実践報告後、休憩をはさんでセミナー参加者とのディスカッションが行われた。

「学校の中で、組織だって性教育を進めていったらいいのか」、「管理職の協力が不可欠だと思うのですが、どうしているのか」などの具体的な質問が、船木氏に出された。船木氏は、教材づくりも含めて学校全体で取り組むことが重要だという。具体的には、性教育委員会の委員長は養護教諭で、委員が各学年から男女各1名が参加し、月1度、各学年の実情の情報共有や教材づくりを行っているという。

武子氏には、外部講師の場合の対象となる施設との関わり方についての質問などがあつた。武子氏は、施設との関係がまったくない状態で、知的障がいのある人たちと関わるのは非常に難しいと思うという。事前に人間関係づくりが必要だという。

ディスカッションでは、それぞれの現場で実際に活動している参加者が多く、真剣なやりとりが行われ、予定時間をオーバー、大変盛り上がった。